介護施設・事業所での防災訓練を通した実践可能なBCP（事業継続計画）づくり

減災復興政策研究科　青田 良介

キーワード　防災訓練、経営理念、本来業務との連続性、BCP(Plan)からBCM(Management)へ

研究概要

国（厚生労働省）では、全ての介護事業者・事業所に対し令和5年度末までにBCP策定を義務付けたが、使えるBCPになっていないとの声が多い。多忙な業務を抱え、慣れない防災業務に専念し、脆弱度が高い利用者をケアするのは容易でない。著者は大阪府内八尾市内の介護事業所（5施設）を対象に、令和3年度から防災訓練を通し使えるBCPづくりを指導してきた。災害対策本部を設置し、「連絡班」「救護班」「安全防護班」「避難誘導班」「生活介護班」「備蓄班」「連絡班」等を設けたが、訓練から見えたのは、情報の共有、報連相の欠如、班同士の連携、指示待ちの改善等、普段のマネジメントに関連することであった。PDCAサイクルまわし、フィードバックすることで全体の業務向上にもつながること等の成果が得られた。

アピールポイント

防災は普段業務と別物と見なされ、敬遠されがちである。訓練では「できること」を増やせば、本来の「すべきこと」に近づくとの発想で、課題を見つけ解決する手法を見出した。経営理念を確立し、前向きに取り組むことで、災害時と平時の業務を有機的につなげることができる。

応用分野

BCPのミッションは本来業務（主）の継続であり、ここに防災的要素（副）を馴染ませることで成立する。障がい者サービス事業者や中小企業のBCP強化にも汎用できる。

【BCPへの姿勢】
1. BCP作成で終わりとしない。
2. 訓練を重ね、検証し，改善し，実践可能にする。
3. PDCAサイクルを踏まえたBCMを実現する。

＋

【BCP作成の手法】
1. 当初から満点を目指さない（×減点法）。
2. 課題を見つけ，難易度を上げていく（○加点法）。
3. 支援と受援を組み合わせる。

＋

【本来業務との関連性】
1. 訓練を通し職員の資質を向上させる。
2. 職員を主体的に参画させる。
3. 訓練の成果を通常業務にフィードバックさせる。